

かけはし

広島市立可部中学校 生活だより

平成23年3月17日 No.36

3月11日、卒業式の準備が整いつつあった頃、東日本では、日本での観測史上最大の地震が起こり、信じられないような悲惨な状況に陥っていました。壊滅的な惨状に愕然としましたが、12日に、予定通り卒業式を挙げてきたことに対する感謝の気持ちと、被災地の人々への哀悼の思いで、卒業式を迎えました。亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されている方々に心からお見舞い申し上げます。

みなさんと同じ年頃のたくさんの中学生たちが、一瞬にして夢も未来も奪われてしまった現実を、みなさんはどのように考えますか。

全てを失い、辺り一面がれきの山と化した町の中で、家族と抱き合い、「生きていてくれただけでいい。」と涙する人々をテレビで見ながら、みなさんは何を思いますか。

「命の大切さ」「家族の絆」「生きることの意味」「私たちに今何ができるのか」などしっかりと考え、家族で話し合ってみてください。



第52回 卒業式

～厳粛な中にも心温まる式となりました～



温かな、春らしい陽射しの中、第52回卒業式が行われました。厳粛な雰囲気の中で、大変立派で感動的な卒業式が行われました。

校長先生の式辞に先立ち、震災で被害に遭われた方々へ黙祷を捧げました。

卒業生のみなさんだけでなく、在校生のみなさんも、きちんとした態度で、卒業生の「最後の授業」に臨んでいました。

在校生代表、執行部の末岡くんの送辞に続いて、高田くんの伴奏、佐久間さんの指揮による**「時を越えて」**は、これまでの在校生の合

唱の中でも大変素晴らしいものとなりました。

卒業生代表の太さんの答辞には、たくさんの保護者が涙を流しておられました。その後の、友近さんの伴奏、西本くん指揮による**「旅立ちの日に」**も、在校生の半分以上の人数での合唱でしたが、3年間の全ての思いがこもった歌声だったと思います。

前日の体育館では、みんなが帰った後、昼食も取らずに、何度も自主的に指揮



や伴奏、礼などを練習する卒業生たちの姿が見られました。一方、在校生のみなさんは、掃除や会場作り、教室装飾、メッセージボード作りなどの準備を万端に整えてくれましたね。執行部のみなさんも、プラカードを持っての先導や様々な場面で、陰になり日向となって良く動いていました。全校のみなさんのそのような一丸となった努力があって、初めて大きな行事が成功するので、本当にお疲れ様でした。可部中学校の良き伝統を受け継ぎ発展させていこう。

特設道徳

～ 先輩から学ぼう！～

15日(火)、卒業生の太さんと米田くんを迎えて、在校生のみなさんにお話をしてもらいました。太さんからは、「日々を後悔しないように、1日1日を大切に過ごしてほしい。」、米田くんからは、「嫌いな人も含めて、相手の幸せを願い、嫌なことも受け止められる心の広い人になってほしい。」ということと、「あいさつ、後輩思いなどの伝統を引き継ぎ、新たな伝統を創ってほしい。」というような話がありました。

3年生全員に書いてもらった「後輩に贈る言葉」が、図書室にあります。卒業生の率直な思いが綴(つづ)られていますので、是非読んでみてください。

「後輩に贈りたい言葉」

私が後輩に一番贈りたい言葉は、「今できることを一生懸命やる。」です。その言葉は、私が1年生の時にも、先輩から言われていました。

でも、その時には、あまり深く真面目に考えていませんでした。高校まであと1・2年あるし、自分なりに頑張っていると思っていました。今、みんなも私と同じように、自分は頑張っていると思っているかもしれません。

でも、きっと、もっと努力できることがあるはず。それは、自分自身の体験で心から伝えられることです。

私は今、受験4日前になって、自分のがんばりが甘かったと後悔しています。3年生になって、自分の進路を決めるときに、今の自分をもう一度見つめ直して、卒業までしっかり頑張ってください。

ちょっと
いい話

先日、旧道で故障して立ち往生していた軽自動車を見て、本校の男子生徒十数名が、「何かお手伝いしましょうか。」と声をかけ、みんなで車を移動させてくれたという嬉しいお電話が数件入ってきました。これからもこういう気持ちを大切にしてくださいね。

